

こんちゅう館フォトギャラリー ①

# 南西諸島の昆虫調査で見かけたチョウ



▲センダングサで吸蜜するスジグロカバマダラ♂

スジグロカバマダラ

*Danaus genutia*

タテハチョウ科

南西諸島、特に八重山諸島で最も普通なマダラチョウの仲間といえば本種かもしれません。車道や林道脇のセンダングサの花から吸蜜している姿をよく見かけます。累代飼育が難しい本種でしたが、最近飼育のコツを掴んだのでパピヨンドームで周年展示できるようになりました。

ヤエヤマカラスアゲハ

*Papilio bianor*

アゲハチョウ科

南西諸島では、本州では見かけることが少ないカラスアゲハの仲間をよく見かけます。ヤエヤマカラスアゲハは八重山諸島に分布するカラスアゲハの仲間です。本州に分布するカラスアゲハと比べて、翅は落ち着いた暗めの色をしています。



▲葉上で開翅するヤエヤマカラスアゲハ♂

## イベント案内

- ★ 12月 ①バックヤードガイド「飼育室ツアー」：3日（土） 13：30～14：30 ※2
- ②クリップバッタ選手権：4日 10：00～11：30、13：00～14：30
- ③虫講座「カブト・クワガタの標本作り」：11日（日） 13：30～14：30 ※2
- ④Xmas 蜜蝋キャンドル作り17日：（土）、18日（日） 13：30～14：30 ※2
- ★ 1月 ⑤バックヤードガイド「飼育室ツアー」：7日（土） 13：30～14：30 ※2
- ⑥七福神めぐり：7日（土）～9日（祝・月） 10：00～14：00
- ⑦虫みくじ：7日（土）～9日（祝・月） 10：00～16：00
- ⑧工作教室「ぱたぱたバタフライ」：15（日） 10：00～11：30、13：00～14：30 ※2
- ⑨大人のための昆虫講座「タガメ」：29日（日） 13：30～14：30 ※2
- ★ 2月 ⑩バックヤードガイド「飼育室ツアー」：4日（土） 13：30～14：30 ※2
- ⑪工作教室「ぱたぱたバタフライ」：5日（日）、19日（日）、26日（日）  
各日とも 10：00～11：30、13：00～14：30 ※2
- ⑫バレンタイン ラブラブケーキ 12日（日） 10：00～11：30、13：00～14：30

※1. 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。  
 ※2. ②⑥⑦⑫以外は、すべて「事前申し込み制」です。  
 ※3. 「事前申し込み制」イベントの募集定員数は、各回とも 25 名程度。応募多数の場合は抽選となります。  
 ※4. 申し込み方法、締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館のホームページをご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.11 冬号 2022 年 12 月 1 日

編集/発行 広島市森林公園こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地

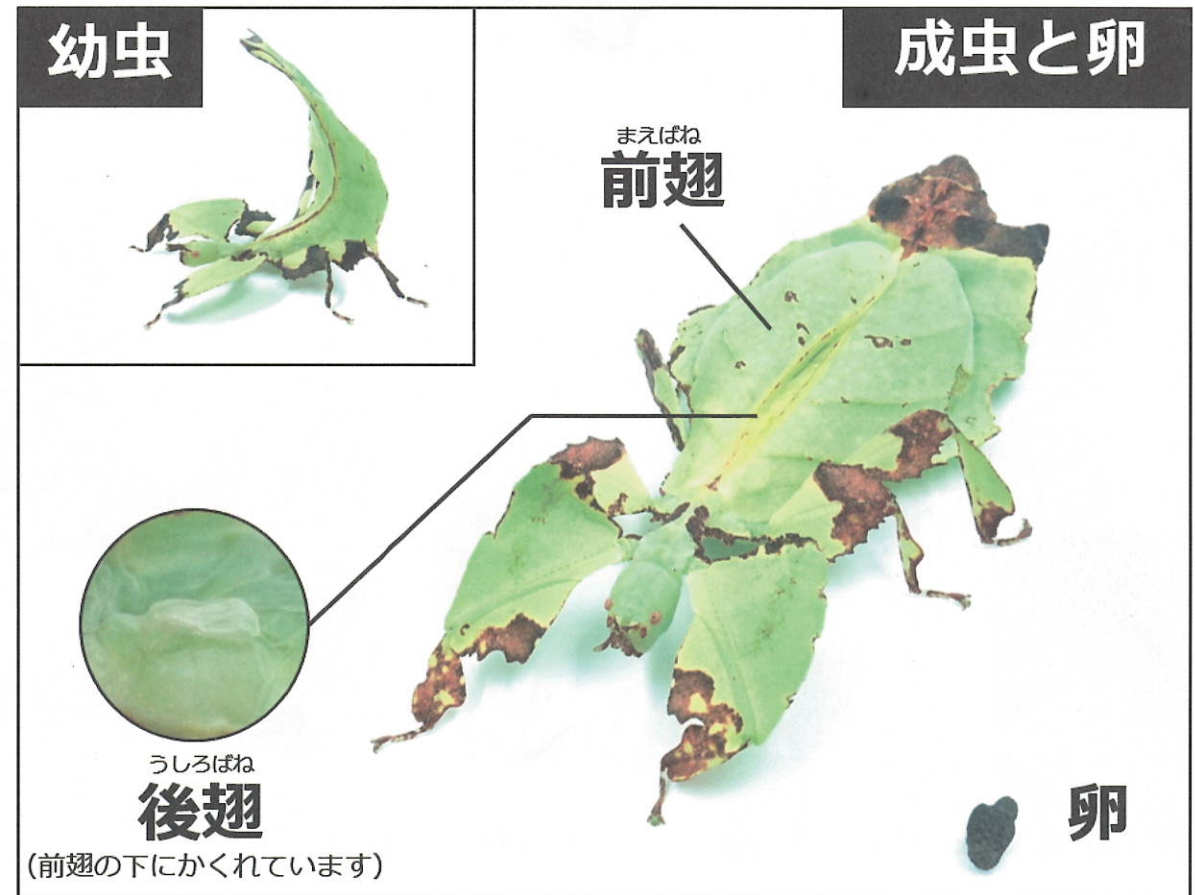
TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

# こんちゅう館 News

み〜んな主役!! 虫の館のスターたち ①

## オオコノハムシ *Phyllium giganteum*

ナナフシ目 コノハムシ科



オオコノハムシはその名の通り、“木の葉”に似た形をしている昆虫です。“木の葉”に似ること、天敵動物から自身の身を隠していると考えられています。マレー半島の熱帯雨林に生息するため、乾燥には弱く、霧吹きを使ってケース内をしっかりと湿らせておかなければなりません。エサは、自然下でも食べられているグアバの葉を与えると、よく食べます。グアバの葉が足りなくなった時は、樹木園のアラカシを与えています。アラカシのような日本に生えている広葉樹を食べてしまうので、もしも野外に逃げた場合生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。そのため、飼育には農林水産大臣の許可が必要です。許可を得るためには、万が一にも逃げ出さないよう鍵のかかる二重ケースを準備するなど飼育環境を整え、さらに書類を提出して審査に合格しなければなりません。

オオコノハムシは♂がいなくても♀だけで子を産み、単為生殖をする昆虫です。♂も存在するのですが、ほとんど生まれてこないため、昆虫館で飼育している個体は全て♀です。♂は後翅が大きく発達しているため、後翅の退化した♀とは形が異なります。私はまだ♂を見たことがないため、早く見てみたいものです。(久我)

# ツمامラサキマダラ *Euploea mulciber*

チョウ目 タテハチョウ科



幼虫

蛹

卵

▲成虫:♂

成虫:♀

ツمامラサキマダラは、南西諸島に生息するマダラチョウの仲間で、元々は国外から迷チョウとして入ってきて定着した種だといわれています。名前の通り成虫の前翅の先の部分は鮮やかな青紫色をしています。

こんちゅう館のパピヨンドームで展示しているチョウの多くは、幼虫の食草の鉢をドーム内に置いて成虫に産卵させた後に回収し、飼育室で卵から育てた成虫をドーム内に放しているため、通常は卵や幼虫、蛹の姿を見ることができません。しかしツمامラサキマダラはドーム内に植えてあるベンジャミンの木などに産卵し、卵から孵化した幼虫はそのまま中で成長するため、年間を通して卵から成虫まで各ステージの姿をどなたでも観察することができます。

展示しているチョウの中では最も数が多く、成虫を見つけるのはとても簡単です。幼虫もオレンジや白、黒などの縞模様の目立つ外見で活発に動くため、比較的簡単に発見できます。蛹は白金色でとても美しく金属光沢を放ちますが、ベンジャミンなどの葉の裏についていることが多く、見つけるのはなかなか難しいかもしれません。こんちゅう館にお越しの際には成虫だけでなく、ぜひ幼虫や蛹も探してみてください。(高野)

## チョウの小話 ①:冬越しの姿

冬になると、本州では野外でチョウを見かける機会もほとんど無くなります。それは、チョウ達が寒さで死んでしまったからではありません。私たちの目に見えないところで、様々な状態で寒い冬を乗り越えています。

成虫で越冬する種は、ルリタテハ、テングチョウ、キタキチョウなどがいます。冬でも天気がいい日には日光浴をすることがあるので、冬でも成虫の姿を見ることがあるかも？

卵で越冬する種は、ミズイロオナガシジミ、アカシジミなどがいます。ミズイロオナガシジミは、コナラやクヌギの枝の窪みに1ミリほどの小さな金平糖のような卵を産みます。

幼虫で越冬する種は、ヒョウモンモドキ、オオムラサキなどがいます。オオムラサキは落葉したエノキの葉で単独で越冬します。ヒョウモンモドキは単独で越冬せずに、集団で巣を作ってその中で越冬します。

蛹で越冬する種は、ギフチョウ、アゲハチョウ、モンシロチョウなどがいます。キャベツ畑やミカン畑の周りを探すと越冬する蛹が見つかるかも？(佐藤)



ルリタテハ  
成虫



ミズイロオナガシジミ  
卵、成虫(右下)



ヒョウモンモドキ  
越冬幼虫(黒色)と越冬前幼虫(褐色)、  
成虫(右下)



ギフチョウ  
蛹、成虫(右下)